



旭川医科大学外科学講座教育支援機構 AMUSE

第1号 <創刊> 2017.3.31

ごあいさつ：外科統一の幕開け -AMUSEの誕生-

旭川医科大学外科学講座教育支援機構 代表理事
旭川医科大学 外科学講座消化器病態外科学分野

古川 博之



会員の皆様におかれましては、旭川医科大学外科学講座教育支援機構（AMUSE）の活動に関しまして、日頃よりご理解ご支援をいただき誠にありがとうございます。2016年4月のAMUSE設立から、ちょうど1年が経とうとしており、AMUSE設立への道のりと、この1年の活動を会員の皆様にも知っていただくため、このたび第1回会報を発行させていただきました。

AMUSE設立までの経緯を少し説明させていただきます。私が旭川医科大学に赴任して以来、道東・道北の外科医不足は深刻なものがあり、旧第2外科で毎年行う人事では、大学の人員がぎりぎりであるのに加えて、関連病院の人員もマイナスという状態が慢性化しておりました。これは、旧第1外科も同様の問題を抱えていると聞いておりました。そのころ、学生より、「研修をうけたいとは思うが、どうして、外科は一つでないのか？」という声を聞いたことがきっかけとなり、外科の統一こそが、診療の合理化はもとより、学生が外科での研修を考えてくれる第1歩と考えるようになりました。このことを東教授が就任されると同時にともに考え、2012年9月、東教授の就任祝賀会では、挨拶の中で外科統一の話をさせていただきました。当時は、心臓外科の教授がまだ決まってなかったこともあり、2013年の紙谷教授の着任を待って、外科統一をどのように進めていくかを

具体的に議論してきました。

こうして、まず、2015年4月に旧第1外科と旧第2外科とを統一することに踏み切りました。しかしながら、旧第1外科と旧第2外科の組織、制度、財政などにおいて様々な相違点があり、そのままでは統一が中途半端に終わってしまう危惧がある上に、昨今の薬剤会社からなどの寄付金の減少などで、これまで通りの医局の運営の仕方ではいずれ限界がおとずれるということが明らかでした。そこで、解決策として登場したのが、法人化です。これまで、それぞれの外科は、医局という任意団体を母体としてやってきましたが、これを法人化することで新しいルールを作り、組織として統一を図ることになりました。幸い教室員を始め、多くの関連病院にもご理解いただき、2016年4月新しい組織として出発することができました。現在では、Grand Rounds（両外科で行うカンファレンス）、学生・研修医に対して行う医局説明会、親睦会など外科合同で行う行事も増え、専門医制度への対応についても外科全体として取り組んでいます。外科統一に伴って、外科講座への入局者も2015年度6名、2016年度9名とこれまでにない数になっています。

知りうる限り、外科の法人化、しかも統一された外科の法人化は、日本のなかでも最初の試みです。人間でいえば、まだよちよち歩きの0歳児で



あり、2016年度のAMUSEの運営が今後の試金石となることもありますし、予算が不足しないよう出費を抑えながら慎重に運営を進めているところです。もっと、積極的な活動をと、ご批判の向きもあることとは思いますが、2016年度につきましては、以上の事情をご勘案いただき、今後に期待を寄せていただければと思っております。まだまだ、法人の活動として至らぬ所もあると思いますが、少しずつ前に進んでいることも確かであり、会員の皆様には、今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

AMUSE創刊号に寄せて —AMUSEとHOPES—

旭川医科大学外科学講座
血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野

東 信 良

AMUSEが設立され、創刊号がめでたく出版されることになり、若手外科医育成のための旭川医科大学外科学講座が順調に船出し、大海原を突き進んでいることをしみじみと感じております。

AMUSE発足の経緯については、古川理事長が書かれた通りであります。多くの困難があったと言っても過言ではありません。外科学講座3名の教授が互いに信頼しぶれずに結束してきたこと、大学執行部が医局を一般社団法人化することについて大変な理解と先見の明があったこと、事務方が非常に難しい制度改革に協力的であったことで、AMUSEという全国でも例のない非常に革新的なシステムを作ることができたと考えております。

当初は3教授での話合いから始ましたが、話が進むにつれて、双方の外科学講座の医局長、教室長が加わり、行政書士の堂下さんや秘書の米谷さんが加わり、精力的に働いていただき、さらに、双方の外科学講座の関連施設の皆様の深い理解のもと、法人設立そして運営に尽力いただいたことが現在の順調な運営の原動力になっていると考えております。

専門医制度改革もAMUSEには追い風で、大学病院等を中心に全ての領域の外科学の研修ができる病院群を作るという手法は、我々がAMUSEすでに先取りしていたわけで、若手外科医の確保だ

けでなく、その若手の研修システムとしてもAMUSE体制が非常に優れたものであることを専門医機構が証明してくれたようなものだと思っています。

若手の入局という意味において、まさに瀕死の状態に近かった旧第1外科、第2外科では、毎年の忘年会の度に、人手不足で内外の皆様には本当に苦しい思いを強いて申し訳ないという挨拶をしてきたことが懐かしく感じるほど、今は、優れた若手がどんどんAMUSEに入社し、そのエネルギーが大学内だけでなく関連施設にも波及し、その効果をみてAMUSE会員一人一人が若手の期待に応えるべく自らを改革してより良い病院研修をめざすという好循環がこんなに短い期間で達成できたのは本当に夢のようです。

この勢いは全国に鳴り響いているようで、学会等で他地域の外科学の先生方から、AMUSEについて聞かれたり、見習いたいという声を聞くようになりました。外科学不足で困っているところが多いだけに、かなり注目されているようです。

さて、これからが重要です。

せっかくAMUSEに入ってくれた若い力をどこまで引き上げることができるか、その成果が問われているからです。若手が次々続くということは、診療にゆとりができ、インシデントが減りますます臨床成績が向上→時間的余裕が生まれ→臨床研究に注力でき→基礎研究にじっくり取り組むあるいは留学に出す機運が生まれるという好循環が待っていると思います。これまで、大学院を希望されても診療で精一杯であってなかなか実現しなかった時代が終わりを告げて、多くの若手がacademic surgeonを目指すことが現実とならなければならぬと考えます。一方、地元や地域の医療にも貢献でき、交代で地域医療に貢献していく中で、地域への貢献を目指す若い力も出てくることも願っています。

関連施設との人事交流も盛んになり、若い力が赴くことで、施設にとっても新たな力は必ずや活力となり、学会発表、論文作成指導だけでなく、医療安全やリスクマネジメントなどについても人事交流がさかんになることで、大いに刷新されてゆくものと期待されます。

交流と言えば、Grand Roundsは大いに外科学員同志の交流に役立っております。AMUSE設立前は旧第2外科の先生方のお顔とお名前が私に

とっては全く一致しておりませんでしたが、今はお互いにそれが一致し、一緒に手術したり、手術中に困ったことがあったらかなり気軽に専門領域の先生を呼んで助けていただくことも珍しい事ではなくなりました。

良い人材の才能を輝かせることで、それをみた若い力がまた集まりますので、AMUSE会員皆様一人一人の貢献が必ずやさらなる好循環を生むことを願ってやみません。私どもはAMUSEに入った若者をさらに北海道で輝かせるために、一般社団法人北海道外科学会Hokkaido Organization of Professional & Educational Surgical Societies (HOPES) を立ち上げました。「社団法人おたく」になりつつあります。若者が見向きもしなくなりつつある地方会を何とか活性化し、どうせやるなら楽しく地方会を盛り上げようとしております。学会賞は勿論続けるとともに、ハンズオンでコンペティションあり、学生セッションでのコンペティションありと、学生や若手外科学者が1泊2日で楽しめる学会を企画しております。これも旭川医大の外科学教授が発端となって、各方面に働きかけ、結果、北海道の外科学教室の教授10名が実印をついて法人が設立したのです。外科学を目指す若者が、やがて、全国学会あるいは世界に飛び出して行く前に、まず北海道の外科学会員が一丸となって若手を育てるこもAMUSEを設立した責任なのではないかと思います。HOPES賛助会員の趣意書が回ってきた場合には、「あー、あの社団法人おたくの仕業か」と思って、少額でもHOPES運営に御寄付いただければ幸いです。

AMUSE構想時から今日まで、「どんどん新しい挑戦を行って、北海道から日本の外科学を変えてゆきたい」と、古川先生、紙谷先生と語ってやってまいりました。是非、皆様からのご理解ご支援を引き続き賜り、また、AMUSEをさらに盛り上げる斬新なアイデアをお待ちいたしております。



日本心臓血管外科学会にて



BBQ大会にて



AMUSE時代を 迎えて

旭川医科大学外科学講座心臓大血管外科学分野

紙 谷 寛 之

AMUSE発足からこれまで1年がたちました。旧第一外科と旧第二外科が統合されることを契機に、医局業務の効率化および学生・研修医にたいする教育活動の充実を目指して設立されたのがAMUSEであり、全国的に珍しい形態の一般社団法人であります。個人社員、法人社員が思っていたより順調に集まり、まずは順調な滑り出しができるのではないかと思っております。今後は、このAMUSEをいかに利用し、我々の理想を実現していくかということが大切になってきます。

一人一人でできることには限りがあり、だから

こそ集団で事に当たってこそ成し遂げられることがあります。その最たる例が地域医療です。AMUSEの理念の一つに、北海道、特に道北・道東における地域医療の充実があります。北海道においては地方からの人口流出は顕著であり、JR北海道が維持困難路線として宗谷線・石北線をあげたように、道北・道東においては地域医療どころか地域そのものが消滅の危機を迎えることがあります。医療は鉄道と同様に、あるいはそれ以上に重要な社会のインフラです。今、地域医療をしっかりと下支えしないと、我々の愛する北海道そのものが崩壊しかねません。

AMUSEという機関を用いてどのようにこの危機に対処するか。まずは旧第一外科・旧第二外科、そしてその関連病院群が一丸となり、地域医療に対する危機意識を共有することが大切になります。そして、旧来の枠を飛び越えた形の人事交流、医師派遣が必要となるでしょう。また、従来は大学から地方へと派遣されるのが通例でしたが、大学とて無限に人材がいるわけではありません。時として、地方の病院から大学への人材派遣・応援など、既存の常識にとらわれない手法をみんなで考えていくときです。

さらに、新規参入者の発掘、平たく言えば新人勧誘もAMUSEの重要な役割です。旧来の枠を取り払った人材交流を行うにしても、交流すべき人がいないのでは話になりません。昨今、過重労働の問題が真剣に議論されています。大手広告会社電通の女子社員の痛ましい事件を契機に国会でも議論が進んでいますが、医療界においても以前より過労死の話は後を絶ちません。つい最近、旭川医大に労働基準監督署の査察があり、是正勧告が出されました。これは、今まで労働基準法の例外と考えられていた医療界も、今後は対象となるという行政の姿勢の表れと考えられます。現在の医師の仕事総量を労働基準法の枠内でこなそうとすれば、従事する人員の大幅増は絶対に必要であり、またそのような体制を構築しない限りは、結婚・出産を希望する女性医師の参入も望めません。AMUSE体制で、外科の魅力を存分に伝えることで、外科参入者を増やす努力が今こそ必要です。

しかし、参入者が増えるということは、一人あたりの経験数が減少するということでもあります。そこで、どう効率よく若手外科医を教育していく、従来の外科医と同等の、願わくばそれ以上

の実力をつけさせるか。ここでもAMUSE体制の真価が問われます。AMUSEはすべての外科分野を内包した、非常に風とおしの良い組織です。すべての建設的なアイデアを歓迎します。総会などでご提案頂いても結構ですし、個別にご相談いただいても結構です。AMUSEには100名以上の個人社員がいます。100人もいれば、素晴らしいアイデアが集結するはずです。皆で一丸となり、若手外科医教育に関するAMUSEモデルを全国に向け発信できるよう、努力を重ねる必要があります。

AMUSEは従来の大学病院とその関連病院というヒエラルキーではない、相互補完的で水平方向的な組織であり、その可能性は無限です。できれば、いわば赤ん坊のような組織ではありますが、皆で大きく育てていき、地域医療を充実させつつも、世界レベルの人材を育成できる機関となればと願っております。



医局説明会後の懇親会にてカラオケ熱唱



SGRにて

AMUSE 運営組織体制

AMUSE個人会員

名誉会員	3名
正会員	109名
賛助会員	2名
合 計	114名

AMUSE法人会員

法人会員	35施設
賛助会員	2施設
合 計	37施設

代表理事 古川 博之
理事 東 信良
理事 紙谷 寛之
理事 矢吹 英彦
理事 内田 恒
監事 新居 利英

幹 事 長谷川公治
内田 大貴
庄中 達也
浅井 慶子
菊地 信介

事務局

旭川医科大学 学生

法人会員一覧

(五十音順)

会員種別	施設名
法人会員	国立病院機構 旭川医療センター
法人会員	公益財団法人北海道対がん協会 旭川がん検診センター
法人会員	JA北海道厚生連 旭川厚生病院
法人会員	医療法人社団進和会 旭川リハビリテーション病院
法人会員	JA北海道厚生連 遠軽厚生病院
法人会員	医療法人回生会 大西病院
法人会員	医療法人徳洲会 帯広徳洲会病院
法人会員	国立病院機構 帯広病院
法人会員	上富良野町立病院
法人会員	医療法人 唐沢病院
法人会員	医療法人仁友会 北彩都病院
法人会員	医療法人社団幾晃会 木原循環器科内科医院
法人会員	医療法人健康会 くにもと病院
法人会員	社会医療法人孝仁会
法人会員	小林病院
法人会員	医療法人ひまわり会 札樽病院
法人会員	JA北海道厚生連 札幌厚生病院
法人会員	医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院
法人会員	社会医療法人 製鉄記念室蘭病院
法人会員	天塩町立国民健康保険病院
法人会員	医療法人 中島病院
法人会員	名寄市立総合病院
法人会員	美瑛町立病院
法人会員	医療法人社団慈成会 東旭川病院
法人会員	比布町立びっぷクリニック
法人会員	JA北海道厚生連 美深厚生病院
法人会員	深川市立病院
法人会員	社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院
法人会員	医療法人社団 ふらの西病院
法人会員	JA北海道厚生連 丸瀬布厚生病院
法人会員	公立芽室病院
法人会員	医療法人社団元生会 森山病院
法人会員	八雲総合病院
法人会員	留萌市立病院
法人会員	国民健康保険町立和寒病院
賛助会員	医療法人社団真佑会 旭川消化器肛門クリニック
賛助会員	医療法人治恵会 北見中央病院

平成29年3月末現在

2016年度AMUSE事業報告

AMUSE事業計画に沿り、下記の事業を遂行できましたのでここでご報告させていただきます。

開催日時	開催場所	事業イベント内容
2016/4/9	クイーンズK	AMUSE設立時総会・新入社員歓迎会
2016/5/19	大学小講堂	消化器外科 ハンズオンセミナー（腹腔鏡下縫合・結紉）
2016/6/29	大学小講堂	合同入局説明会
2016/7/7,8	大雪クリスタルホール	第34回肝移植研究会 開催支援 会長：古川教授
2016/7/13	臨床第3講義室	第5回 grand rounds 「広範囲胸壁浸潤を呈した甲状腺癌縦隔リンパ節転移症例」
2016/7/24	ハーベストロードハウス	外科学講座 大BBQ
2016/8/25	臨床第3講義室	第6回 grand rounds 特別企画 「肝胆膵外科治療 限界への挑戦」
2016/8/27	札幌市教育文化会館	第14回乳癌学会地方会 世話人：北田正博
2016/9/26	メルキュールホテル札幌	日本血管外科学会第36回北海道地方会 開催支援 大会長：東教授
2016/10/13	大学小講堂	消化器外科 ハンズオンセミナー（腸吻合）
2016/10/20	臨床第2講義室	第7回 grand rounds 「外科医の基本？命を救いQOL向上させる消化管ストーマ」～ミニレクチャーと討論会～
2016/12/3	北海道大学医学部学友会館「フラテ」	第110回日本臨床外科学会北海道支部例会 開催支援 会長：古川教授
2016/12/17	アートホテル旭川	旭川医科大学外科学講座・AMUSE大忘年会
2017/1/29	小講堂	旭川医科大学外科学講座 アドバンス実習合同説明会、懇親会
2017/1/30	臨床第3講義室	第8回 grand rounds 外傷診療へのアプローチとマネジメント
2017/2/3	大学小講堂	心臓大血管外科 ウェットラボ
2017/2/10	札幌	指導医のためのワークショップ助成
2017/2/25	北海道立道民活動センターかでる2.7	第29回代用臓器・再生医学研究会総会 開催支援 会長：古川教授
2/26~3/1	東京	日本心臓血管外科学会への学生参加における助成
その他		広報活動 (Facebook、HP)、招聘講師謝金、事務一般、医局運営、学生勧誘親睦会、論文校正助成、学祭医学展への協力

【総会・新人歓迎会】

平成28年4月9日(土) クイーンズKにて、一般社団法人AMUSE定時社員総会(設立時総会)を開催しました。71名の会員にご出席いただき、理事をはじめとする役員、会費、事業計画案、収支予算案および名誉会員の推薦につき審議され承認されました。総会に引き続き、新人歓迎会が行われ、今年度新たに外科学講座に加わった9名の医師が紹介されました。



設立時総会



第1回集合写真 新人は最前列で正座しています

【Surgical Grand Rounds】

AMUSE設立以前より、平成27年4月1日に外科学大講座制を宣言して以来、定期的にSurgical Grand Roundsを開催してきました。そこでは多分野でコラボした手術症例の検討、各専門領域における活動内容紹介、著名な医師を招聘しての特別講演会等を行い、毎回多くの研修医や学生も参加しています。

AMUSE設立以後はこれまで以下のとおり5回開催されています。

3月24日(木)：あの手この手の大動脈治療 + α
(心臓外科担当、大分大学 宮本伸二教授による特別講演)

7月13日(水)：広範囲胸壁浸潤を呈した甲状腺癌
縦隔リンパ節転移症例(呼吸器乳腺外科担当)

8月25日(木)：肝胆脾外科治療 限界への挑戦—
先端医療と医療倫理—(消化器外科担当、神戸大学 具英成教授による特別講演)

10月20日(木)：外科医の基本？命を救い、QOLを
向上させる消化管ストーマーミニ
レクチャーと討論会—(小児外科担当)

1月31日(火)：Advanced Trauma Approach and
Management(消化器外科担当、災害医療センター 霧生信明先生による特別講演)



災害医療センター霧生先生の特別講演



皆熱心に聞き入っています

【医局説明会】

5、6学年の学生に対する医局説明会も、平成27年度より旧第一、第二外科合同で行っています。今年度は6月29日(水)に開催し、多くの学生に参加いただきました。説明会後に大黒屋で行われた懇親会にも多くの学生が参加し、その場でAMUSEへの入会を宣言した学生も一名いました。



皆さん真剣です



おいしいジンギスカンを囲んで盛り上がりました



意外とむずかしい……でも面白い！



庄中先生大活躍でした

【医大祭における医学展への協力】

平成28年6月11～12日、医大祭において一般市民向けの手術手技体験コーナーが学生主導で開催され、内視鏡手術手技体験、糸結び体験の技術指導および物品提供を行いました。参加した子供達の中から将来の外科医が生まれるかもしれませんね。この企画は2017年も予定されています。



伝授した技を学生達が熱心に指導しています

【ハンズオンセミナー】

消化器外科では主に高学年の学生を対象に、基本的な縫合、結紉手技や消化管吻合手技、内視鏡外科基本手技等に関する講義と実習を、ハンズオンセミナーと題して行っています。実習はドライボックスやティッシュラボ(主に豚の臓器)を用いて行っており、参加学生による手技のコンテストなども行い、毎回学生達は非常に熱心に取り組んでいます。

今年度は3月3日(木)、5月19日(木)、10月13日(木)に開催しました。

セミナー後には懇親会を行いコンテストの表彰なども行っています。



将来の外科医でしょうか

【ウェットラボ】

業者提供のブタ心臓を用いたウェットラボを年度内で2回開催することができました。医学生3~6年の参加者10名~15名は、実際の手術ながら、人工弁での大動脈弁置換術やRingを用いた僧帽弁形成術の手ほどきを、第一線で活躍している心臓血管外科医からうけていました。解剖や、糸裁きに四苦八苦する学生さんや、なんと弁置換を難なく完遂してしまう学生さんもいたとか。紙

伝宣用ポスターは
好評でした！将来心臓外科医を
目指す女学生と

熱意のこもった指導に学生も応えてくれました

谷教授の軽快なトークの中、大盛況のうちに開催することができました。良い学生向けアピールになる機会でした。



最後はお決まりのポーズで（笑）

【BBQ】

学内会員(とその家族)、医学生、研修医との親睦、福利厚生目的に、BBQが開催されました。会場は、かの旭川を代表する歌手が結婚式を行った郊外のリストランテ。夏期の爽やかな天候にも恵まれ、美味しいお肉とともに、親睦を深めることができました。



告知用ポスター



古川教授 BBQ開会宣言



学生も大満足



シラスコ！



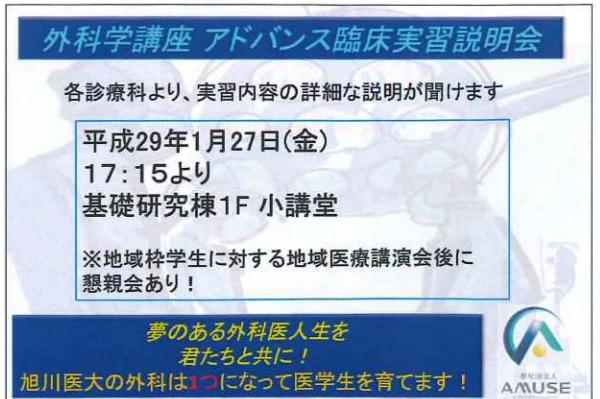
紙谷教授を囲んで



子ども達の親睦も深りました

【アドバンス実習説明会】

医学部6年次のポリクリ（臨床実習）においては、選択制となっており、①各科4週実習+地域実習（2週）または②各科4週実習+各科2週実習、どちらかを選択するカリキュラムになっております。この時期の学生の中には将来目指す科を選択する傾向にあり、AMUSEとしても各種コースを用意し、“外科医への第一歩”と称して積極的に外科を選択していただけるよう学生へアピールを行っております。実習に協力していただいている関連会員施設の先生におかれましては、この場を借りて御礼申し上げます。説明会には多くの学生さんに集まっています。アドバンス実習で外科を選択してもらえるよう各診療科の先生にプレゼントをしていただきました。45分という短い時間でしたが、外科に興味のある学生さん達ばかりでしたので、目を輝かやかせて聞き入っている姿が印象的でした。懇親会も大変盛り上がり、親睦を深めることができました。



告知用ポスター





熱心に聞き入る学生



早くも?! 懇親会も大盛況でした!



大谷先生による消化器外科コースのプレゼン



平澤先生による小児外科コースのプレゼン



古川教授、東教授を囲んで

恒例のメイン看板前で記念撮影
(向かって右から永渕くん、吉松さん、鈴木くん、
石堂くん、瀬戸川さん、柴垣さん)汐留のタワービル42Fにて懇親会
(東京スカイツリーの夜景をみつつ)

学会の全体懇親会にて(お台場の夜景とともに)

おはようございます。
iPhone復活しました!
昨日まではご迷惑をおかけしました。

学会に来させていただき初めて見る世界がたくさんあり、各々得るものが多い。充実した4日間を過ごさせていただきました。お忙しくお疲れの中、本当にありがとうございました。
飲み会や、懇親会もお店やお料理に興奮の毎日でしたし、たくさんお話をできてとても楽しい時間を過ごさせていただきました😊
手書きやスケジュール管理など何から何までしていたいた枝葉さんにも感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました!
これからもアドバンス実習などでもお世話になることがあると思いますが、よろしくお願ひ致します。

学生を代表してご挨拶させていただきます。長文失礼しました。

懇親会でiphoneを水没させた学生さんの感想です
iphoneはその後奇跡的に復活したそうです(笑)

【広報活動】

AMUSEでは、外科学講座HP、SNS (Facebook)を利用して、活動の一端を会員や、学生、研修医、地域社会に情報発信しています。学生にとっては先輩の頑張っている姿や、AMUSEのイベントを知ってもらえる良い機会になっています。積極的に利用してAMUSEを多くの方にアピールできればと考えています。

旭川医科大学外科学教育支援機構 AMUSEさん
写真の件を拝見しました。一切OK! パシフィック開設
お問い合わせください。

旭川医科大学外科学講座教育支援機構 AMUSE
旭川医科大学人材育成部
2月7日 20:10

おはようございます。旭川医科大学外科学講座教育支援機構 AMUSEさん
写真の件を拝見しました。一切OK! パシフィック開設
お問い合わせください。

おはようございます。旭川医科大学外科学講座教育支援機構 AMUSEさん
写真の件を拝見しました。一切OK! パシフィック開設
お問い合わせください。



学会参加報告



国家試験直前の差し入れ

SURGERY TOPICS

ニュース

- 2017/02/06 心臓血管外科学会-Wet-lab (2月3日) 遅刻のうちに終了いたしました。
- 2017/02/06 心臓大血管外科学会-1月20日に行われたECPR (体外循環式CPR)実習会が終了しました。
- 2017/02/06 心臓大血管外科学会-1月20日に行われたECPR (体外循環式CPR)実習会が終了しました。
- 2017/02/01 消化器外科学会-第8回 大腸炎のうちに終了いたしました。
- 2017/01/17 2017年1月13日 第3回 UGRを開始します。(消化器外科学会)
- 2017/01/06 2017年2月1日 心臓大血管外科学会 Wet-lab開催、中止み付切開始。PPAP - ??

研究・最先端医療

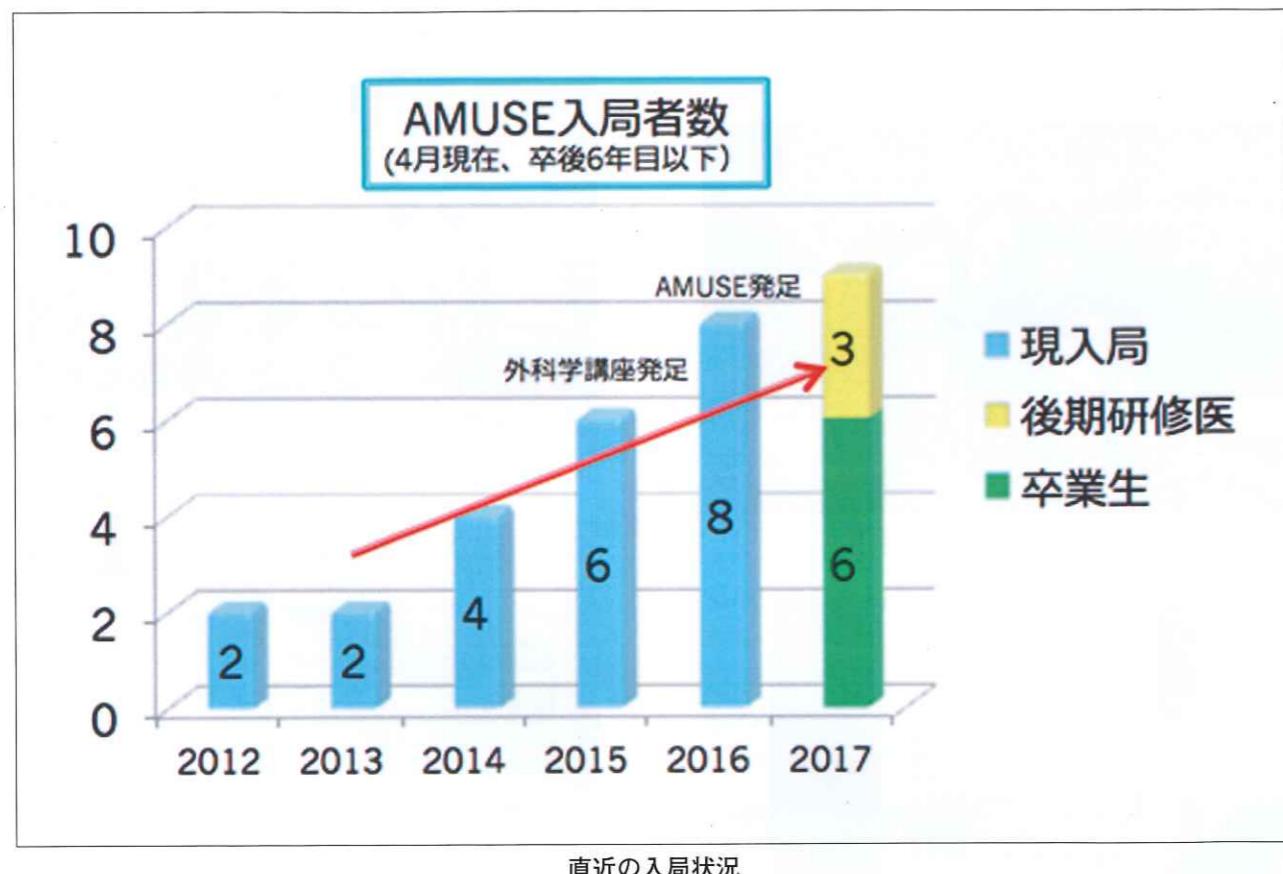
外科学

2016/03/10 4月8-9日 基 球 (Meng LingTong) 先生がTSS-55 来院です

HPで医局ニュースを載せてます

入局者動向

会員の方々のご協力もありましてH28年度は7名の将来有望な若手に入局していただけました。H29年度は卒業者6名、後期研修者3名（阿部昌宏先生、國岡信吾先生、小林大太先生）の計9名が入局されます。ここ最近をみても着実に入局者は増えています。今後も外科ならびにAMUSEの魅力、熱意を多くの学生、研修医に伝えて行きたいと思います。



初期・後期研修医動向

6年目以下20名の研修医動向（※平成29年4月現在）をお示しします。

若手各々、外科専門医取得を目指し研鑽をつんでいると思います。AMUSEの理念、役割として外科医を目指す若手のキャリア形成支援が掲げられており、外科専門医取得サポートはAMUSEの責務であります。会員施設の皆様には、ご支援ご協力を頂いております。この場を借りて御礼申し上げます。

年次	氏名	在籍	備考
1年目	潮田亮平	北見赤十字病院	
	堀川大介	名寄市立総合病院	
	柴垣圭佑	名寄市立総合病院	
	高橋一輝	市立旭川病院	
	宮本寛之	市立旭川病院	
	大久保諒	札幌東德州会病院	
2年目	山本寛大	旭川医科大学	
	森山寛也	旭川医科大学	
	安達雄輝	旭川厚生病院	
	大平成真	旭川医科大学	
	竹吉大輔	八雲総合病院	5月より大学で外科研修
	鎌田啓輔	名寄市立総合病院(心臓血管外科)	名寄で消化器外科も研修
3年目	斎藤善也	遠軽厚生病院	
	小林大太	旭川医科大学	外科研修
	竜川貴光	旭川医科大学	外科研修
	岩田浩義	遠軽厚生病院	道地域枠人事
	國岡信吾	製鉄記念室蘭病院	
	中津知己	名寄市立総合病院	名寄で消化器外科も研修
	武田智宏	小林病院	
	安田俊輔	国立病院機構帯広病院(呼吸器外科)	帯広で心臓血管外科も研修
	阿部昌宏	旭川医科大学	乳腺・呼吸器外科研修
4年目	合地美香子	旭川医科大学	外科研修
	栗山直也	釧路孝仁会記念病院	
	菊池悠太	製鉄記念室蘭病院	
	高橋奈七	旭川医科大学(乳腺・呼吸器外科)	大学院(講義)
5年目	西越崇博	旭川厚生病院	外科専門医予備試験
	筒井真博	国立病院機構帯広病院(心臓血管外科)	外科専門医予備試験
6年目	多田裕樹	国立病院機構京都医療センター	外科専門医認定試験
	岡崎智	旭川医科大学	大学院(病理)
	石井大介	旭川医科大学	小児外科研修、外科専門医認定試験

八雲総合病院での 1年間

八雲総合病院（1年目）

竹吉大輔

2016年3月に旭川医科大学を卒業し（38期生）、八雲総合病院にて初期臨床研修をしております竹吉大輔です。出身は福岡県福岡市で、1年間の浪人を経て旭川医科大学に入学いたしました。卒業後は本州・九州で研修するつもりでしたが、将来は紙谷教授のもと小児心臓外科をやりたいと思いAMUSEに入会させて頂きました。

さっそくですが、八雲総合病院での一年間の研修を簡単に紹介させていただきます。

4～9月は内科、10月は麻酔科、11月～3月は外科にて研修させていただきました。

内科研修では4月から平日時間内救急のfirst Callをさせていただき、Common Diseaseをたくさん経験することができました。麻酔科研修は当院に常勤医がないため、週替りの出張医（札幌医大）の先生にご指導していただきました。外科は北大第二外科の関連施設で主に消化器疾患を扱っており、執刀も含めていろんな経験をさせていただきました。外科専門医取得に必要な消化器症例50例は八雲で経験することができます。

八雲総合病院での1年間を一言で表すと「ずっと病院にいた1年」でした。救急外来にしても1日あたりの症例が少ないので、旭川や札幌の大きな病院で研修している同期と同じくらいの症例数経験しようとすると、とにかく毎日病院にいるしかありませんでした。ただ、ずっと病院にいることで救急外来以外にもいろんな経験をすることができました。病院では予期せぬ出来事がしばしば起こります。そんなときこそ、手技を含めいろんな経験をさせてもらいました。実際に患者さんを見て、手を動かして、学べたことは、勉強が苦手な私にとっては大変ありがたいことでした。

八雲総合病院での研修は私にとって大変実りあるものになりましたが、旭川も遠く、飲みに行く同期もおらず、将来の進路との関わりを持てない1年間で、なかなかモチベーションを保つのが難

しい時期もありました。そんな環境の中でもなんとかやってこられたのは、紙谷教授からときどきお電話していただいたり、月2回の同門の先生方（木村先生、奥田先生、中西先生、北原先生）が出張へ来られた際に声をかけて頂いたおかげでした。紙谷教授はじめ教室の先生方には心から感謝申し上げます。

今年1年は「良い研修ができないことを場所のせい、病院のせいにするようだったら、お前はそこまでの人間だ。八雲で学べることを最大限学んで、しっかり楽しんでこい」という紙谷教授の言葉を常に自分に言い聞かせながら、他の病院で研修している同期に負けないようにとやってきました。2年目は八雲総合病院の御好意もあり、5月から11か月間大学での研修をさせていただける事になりました。小児科、小児外科、血管外科、心臓外科をローテーションする予定です。八雲総合病院での経験を糧として、大学でまた一から勉強していきたいと思いますので、大学勤務の先生方はじめ、AMUSEの先生方、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。



自己紹介と 名寄での近況報告

名寄市立総合病院（1年目）

鎌田啓輔

初めまして。名寄市立総合病院で初期研修をしております、鎌田啓輔と申します。僭越ながら自己紹介と近況報告をさせていただきます。

出身は江別市で、高校は札幌東高校に通っていました。その後1年の浪人期間を経て2010年に旭

川医科大学に入学しました。

幸いにして無事に進級することができ、2016年に旭川医科大学を卒業しました。同時に長らく付き合っていた方と入籍いたしました。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、大学病院9階東病棟の看護師さんです。以前はかなりハードな職場だったかと思いますが、今は名寄市内の個人病院でパートタイムで看護師を続けています。全く異なる環境のようですが、楽しく仕事をしているようです。もうすぐ結婚して1年が経過します。今のところ子宝には恵まれていませんが気長に待つことにします。

初期研修の方ももうすぐ1年となります。内科、救急、麻酔と様々な診療科をローテートさせていただき、勉強を続ける毎日です。2月現在循環器内科で研修しております。先日心筋梗塞の方を大学へ搬送させていただいたことがあり、名寄と大学の連携の重要さを学んだ症例となりました。

日常診療では様々な合併症を抱えた方の心不全治療や、心房細動を始めとする不整脈治療、カテーテル治療を経験させていただいております。自分の将来を見据えながら勉強することができ充実しているとともに、もっと頑張らなくてはと焦りを感じる毎日です。

来年度からは外科をメインとしたローテーションとなります。総合外来や救急当直など研修医のうちにしか勉強できないことが名寄の臨床研修には多々あります。将来のための勉強、今しかできない勉強、その二つを大事にしながら来年度の研修生活を送ることができればと思います。

以上とりとめもない文章でしたが、私の自己紹介と近況報告とさせていただきます。今後ともよろしくお願ひいたします。



ICUでの一コマです。

近況報告

旭川医科大学（1年目）

森山寛也

医師として働き出し、もうすぐ1年が経とうとしています。私は岩手医科大学を卒業し、初期研修を旭川医大病院で行うことになりました。旭川に帰ってまいりました。旭川医科大学病院の研修医はほとんどが旭川医大卒業である中、外部からから入ることに一抹の不安はありました。同期に受け入れられ、先生方の手厚いご指導もあり、充実した研修医生活をおくっています。

研修科としましては、1年目の義務である救急科を3ヶ月、内科6ヶ月を消化器、循環器、神経内科で過ごし、選択できる3ヶ月間は2ヶ月を麻酔科、残りを消化器外科で研修いたしました。大学病院での研修は、臨床はもちろんですが、学術的な指導、勉強会も多く、国家試験をぎりぎりで受かった私にとっては、学ぶべきことが多く大変良かったと思っております。また、大きく勉強にならったと感じていることに、学会発表があります。私は救急科で2度、消化器外科から3度のチャンスを与えていただき、計5回の発表をさせていただきました。他科に比べますと、1年目ではとても多い方なのではと感じております。外科に関しましては、もちろん先生方のご尽力あってこそですが、AMUSEが発足し、新人育成に力を注



いでくれていることも関係しているのではと思ひ、大変感謝いたしております。初めは発表すること自体で精一杯でしたが、徐々に慣れて周りが見えてくると、学会は勉強になる発表もたくさんありますし、またどのように話すことで説得力を持たせられるか、人に好感を与えるかなども学べる、大きな場であると感じました。

まだ私は知識も技術もありませんが、外科医を志す一人として、合法的に人を傷つけるにあたり患者さんとどう接していくのか、「医療人たる前に、誠の人間たれ」と岩手医大で教えられたこの言葉を胸に、精進していこうと思います。何卒ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

AMUSEの一員として

旭川医科大学（2年目）

武田智宏



旭川医科大学37期生、武田智宏と申します。初期研修がもうすぐ終わろうとしていますが、1年目を名寄市立総合病院、2年目を旭川医科大学病院で研修させていただきました。大学での研修では、心臓外科4か月、消化器外科3か月、血管外科2か月、呼吸器乳腺外科1か月、小児外科1か月、地域研修（礼文島）1か月というローテーションでした。外科全般を研修したうえで将来の専門を決めようと学生のころから思っており、東教授を中心に1年間でAMUSEの全分野を研修できるローテーションを組んでいただきました。どの分野も非常に興味深く、また先生方が熱心に教えてくださり、充実した2年目研修を送ることができました。とても迷ったのですが、消化器外科を将来の専門にしようと決心しました。

4月からは北見小林病院で勤務させていただきます。自分に与えられた仕事をこなし、その中で外科医として必要な知識・技術を身につけていきたいと思っております。

今後は消化器外科を中心に修練を積んでいくことになるかと思いますが、AMUSEの一員として、全分野に協力できるような外科医になることを目標に頑張っていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

挨拶と自己紹介

札幌東徳州会病院（2年目）

岩田浩義

初めまして。旭川医科大学第37期卒業、卒後2年目の岩田浩義です。この度この4月からAMUSEの一員として皆様とともに働かせて頂くこととなりました。出身は北海道の道東に位置する湧別町で、

小学3年から野球をしていたこともあります。大学でも準硬式野球部に所属しておりました。卒後初期研修期間の2年間を札幌東徳州会病院で行い、救急医療を軸に今後専門としていく外科をはじめ、内科や小児科、麻酔科など幅広く研修を行って参りました。3年目となった4月からの後期研修は遠軽厚生病院で本格的に外科医としての1歩を踏み出し、これから多くのことを吸収していきたいと思っております。また、私は大学時代に北海道医療地域医療課の地域医師確保推進の奨学金を借りており、卒後9年は北海道知事が指定する公的医療機関での勤務が義務付けられているため、4年目では名寄市立総合病院での後期研修が内定しております。勤務可能な施設が限られているため、しばらくは旭川医科大学病院を含む旭川や札幌で勤務する先生方と一緒に働く機会も限られていますが、皆様と一緒に働く時にはできる限り成長した姿をお見せできるよう精進して参ります。外科医としてはもちろん、医師としてもまだまだ未熟者ですので、皆様に多大なる御迷惑をおかけすることと思いますが、どうか御指導・御鞭撻の程宜しく御願い申し上げます。

遠軽厚生病院での初期研修

遠軽厚生病院（2年目）

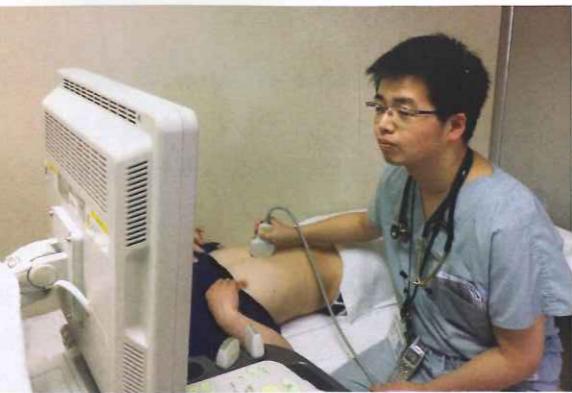
齋藤善也

私が医師として遠軽厚生病院で初期臨床研修を開始して、早くも1年半が過ぎました。私の初期研修は、私自身が患者となって入院し、手術を受け、術後の生活を組み立て始めるとから始まりました。経験に勝るものなし、とも言われるよう、病気になったことの不安感、手術後の痛み、その後の生活の変化や悩みなどを実際の患者として知り得たのは、医師としては貴重な経験であり、また、今も続いているものもあります。

今年度前半は内科研修をまわり、胃カメラ・大腸カメラを扱えるようになりたいと考え、研修に取り組んできました。そして、後半にあたる10月からいよいよ外科の研修を始めたところです。外科に来てから改めて自らの医師としての未熟さ・知識不足が露呈し、現在、よりいっそう精進するべく努めているところです。

昨年、遠軽厚生病院の外科で行われた全身麻酔手術は200件を超みました。上部消化管・下部消化管はもとより、呼吸器、乳腺、血管など多岐にわたり、また、産科の再スタートに伴い帝王切開術の助手も務める機会もありました。このように幅広い分野の手術経験を得られることは、とてもありがたい環境であると思います。私自身の執刀としては、鼠径ヘルニアを経験させていただきましたが、メスの動き1つ、糸の結紗1つと、まだまだ足りないものだらけであると実感しています。

外科学分野が大講座制となりAMUSEが発足し



たことで、これまで以上に、より多くの先生のもとで学べる機会が増えるのではないかと思います。その先生の手技や考え方、判断の仕方を学ばせていただき、自身の中に取り込み、患者としての経験をも混ぜ合わせて、これまで以上に患者さんに寄り添える立場の外科医になりたいと思っています。AMUSE諸先生の皆さんには、今後とも御指導御鞭撻いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

自己紹介と近況

遠軽厚生病院（3年目）

栗山直也

今回AMUSE会報を創刊するにあたり、寄稿することとなりましたので、自己紹介も含め、最近の私の動向などを書かせていただければと思います。

平成26年（36期）に旭川医科大学を卒業し、旭川医科大学病院で2年間の初期研修を修了しました。平成28年に旭川医科大学の外科学講座が統合され、AMUSEが発足したということで、そのタイミングで医師として3年目を迎え、旧第一外科に入局していた私は、AMUSE創設の流れの中で元々は旧第二外科の関連病院である遠軽厚生病院外科へ赴任させていただくこととなりました。旧第一外科の人間が、第二外科関連病院である遠軽厚生病院に来たことは以前にもあったようですが、AMUSEの一員として来ることは初めてだったので、最初は緊張などもありました。しかし、諸先輩先生方々にはとても熱心に指導していただき、その緊張感はいつの間にかなくなっていました。当初からこの病院では一年間限定の研修ということでしたので、平成29年度からはまた新たな地へ赴任するわけですが、職業柄仕方のことではあるのですが、仕事にも環境にも慣れてきた頃に、また新たな地へ赴任することになって、少し寂しい気もしているのが正直なところです。遠軽厚生病院では一年間という短い間でしたが、一般外科の研修をして、諸先輩先生方々のご指導の元、執刀症例をあてていただき、論文も一

編書させていただくこともでき、とても有意義な研修をさせていただくことができたと思っております（写真は僭越ながら執刀させていただいたときのものです）。寄稿時点では新しい赴任先は正式には決まっていませんが、平成29年度からは再度心臓血管外科での研修をすることと、これから消化器外科の症例をみると少なくなると思うと、今のうちにしっかりと勉強しておこうと思います。そして、新天地へ赴いてもその地域の医療に貢献し、自分も医師として成長できるよう努力していきたいと思います。

また、大学時代にゴルフ部に所属していたということもあり、趣味としてゴルフもやっていますが、遠軽には冬に行ける練習場もなく、ここ最近はクラブすら握っていません。それでも平成28年度は、ラウンドに一度行けたことは良かったと思っています。来年度も年に一度はラウンドに行けたら上出来かと思っています。



左から後藤先生、私、北先生。

旭川厚生病院での1年間の研修を終えるにあたって

旭川厚生病院（3年目）

合地 美香子

旭川厚生病院ではAMUSEの社員は3年目の私（消化器外科・移植外科）と1年目研修医の安達雄輝（消化器外科・移植外科）が研修を行っております。旭川厚生病院の外科は北大一外や乳腺外科など様々な先生方、総勢11人で構成されています。手術日は月曜日から金曜日まで毎日なので、手術をしていない日はほとんどありません。手術

内容はヘルニアから胃・大腸・脾臓・乳腺など様々です。呼吸器外科もあり、時々呼吸器外科の手術のお手伝いもさせて頂いております。産婦人科や泌尿器科、形成外科とも合同（ヘルプにいたり、ヘルプに来ていただいたら）で手術することがあり、幅広い病態に対応できているのかと思います。

病棟は2チームに分かれています。患者は60～70名を管理しています。緩和ケアチーム・緩和病棟もあり、終末期の癌患者さんに対して身体的・精神的に病院全体でサポートしております。また急性期病院ということもあります。療養目的に他院へ転院の受け入れをお願いすることが度々ございます。受け入れをしていただきました関連病院の先生方にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

私の個人的な研修としましては、外科医として1年目でわからないことだらけでしたが優しい上司たちに恵まれ（嘘っぽく聞こえますが本当です!!）、毎日楽しく研修しています。

手術に関しましてはH28年4月からH29年2月まで執刀は約80件経験しました。（NCD登録症例：内訳は胆摘21件、ヘルニア19件、虫垂切除13件、胃11件、大腸9件、他7件）。技術も知識もまだですが、とても充実した1年となりました。

今後、多くのAMUSEの後輩たちがたくさんの手術を経験し楽しく研修できる旭川厚生病院のような施設が増えたらと思います。



↑
私
↑
1年目 安達先生

ご挨拶と近況報告

国立病院機構帯広病院（4年目）

筒井 真博

こんにちは。35期の筒井と申します。2017年4月より医師5年目となります。現在は国立病院機構帯広病院 心臓血管外科に所属しております。記念すべきAMUSE会報の創刊の号にご挨拶させて頂ける機会を頂けて大変嬉しく思います。とはい�建築には高尚な文章は書けませんので、簡単な自己紹介と近況報告をさせて頂きます。

僕は札幌出身で、高校は札幌南高校を卒業し、2回浪人した後に旭川医科大学に入学しました。バスケットボールをずっとやってきており、学生の時もバスケットボール部に所属していました。僕にはあまり特徴はありませんが、強いて挙げるとすれば脾臓が弱い事が人と違う事だと思います。子供頃から急性脾炎を繰り返しており、原因は不明です。普段はとても元気で、何とか治したいとは思いつつも、いまだに年に1、2度入院してしまっています。たまに脾炎で倒れるヤツがAMUSEにいると覚えて頂けると嬉しいです。

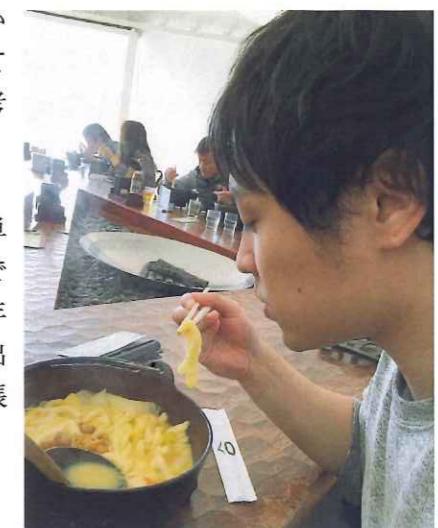
2016年4月より国立病院機構帯広病院に所属させて頂いていますが、この1年間は公私ともにとても充実した1年となりました。仕事の話をするとき、この2016年度はとても充実した勉強・研修をさせて頂く事が出来ました。執刀の機会も増え、全国学会での発表など、非常に貴重な経験を次々にさせて頂いています。2017年度も帯広でお世話になる事が決まっており、非常に楽しみであるとともに有意義な1年に出来るよう頑張りたいと思っています。

また私生活においては、7月に結婚しました。紙谷教授に「筒井に結婚は無理だ」とまで言われた僕ですが何とか良い相手とめぐり合う事ができ、無事結婚までたどり着く事が出来ました。結婚に満足するのではなく、良い家庭に出来るよう頑張っていきたいと思っています。

今後の予定として、2017年度は外科専門医予備

試験を受ける予定となっています。試験というもののを久しぶりに受けるので少し勝手を忘れかけていますが、いい準備をして臨みたいと考えています。

以上、簡単な近況報告でした。2017年も良い年に出来るよう頑張ります。



自己紹介と近況について

札幌厚生病院（5年目）

多田 裕樹

AMUSE会報をお手に取られている皆様、いかがお過ごしでしょうか。私は4月で卒後6年目となります、後期研修医の多田と申します。

大学時代はバレーボール部（主将）、学祭実行委員長など一見派手っぽい役柄をまかされていたこともありました。しかし、私個人のパーソナリティの問題で陰が薄いためご存じない方も沢山いらっしゃる事と思います。この機会にお見知り置きいただけましたら幸いです。

蛇足ですが、中学時代にかじった剣道（二段）



札幌厚生病院 心臓血管外科 手術中の様子
東教授が札幌まで、手術指導に来てくださいました。

と札幌厚生病院赴任中に内田恒先生に教わる予定であったゴルフ（コースデビュー：未）は、今後の長期的な趣味として、高めるチャンスをそっと窺っていきたいと思いますので、師匠となってくださる方がいらっしゃいましたらお声を掛けてください。

これまでの研修の流れとしては、札幌東徳洲会病院での初期研修スーパーローテ（2年）の後、旧第一外科入局後研修（18ヶ月）の中で、血管外科・心臓外科・小児外科・呼吸器乳腺外科で御指導いただきました。さらに私の勝手な強い希望で（各方面へお話を通していただいた上で）1ヶ月の間、生理検査室・透析室（旭川医大腎臓内科／リハビリテーション病院透析室）で勉強する事を特別にお許しいただきました。多方面で御厄介になりましたが、多くの事を学び、身につける事ができました期間でした。

2015年10月から札幌厚生病院心臓血管外科へ異動となり、吉田博希先生・内田恒先生の元、研修を行なっております。腹部大動脈瘤ステントグラフト実施医（2機種）や、外科専門医予備試験合格など、少しずつですが明確なステップを踏みながら私の将来の目標である血管外科医としての具体的な研修を行なうことができました。2017年4月からは国立病院機構京都医療センター 心臓血管外科への異動予定となっております。今後も、将来像をイメージしながら、環境の中で最大限の学びを吸収していくように、貪欲に過ごしていかなければと思います。

最後に私事ですが、個人近況として、2017年1月2日に第一子である息子、佳一朗（けいいちろう）が誕生いたしました。昼夜問わず元気一杯で、寝ぼけ眼でオムツを替えようものなら気付けの水を浴びせようかという父子の攻防を繰り広げております。

息子は1月半で2kg程増量いたしましたが、愚かな父も負けないよう成長（体重ではなく）出来るよう邁進していますので、AMUSE会員の皆様、御指導御鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



佳一郎氏

小林病院での一年

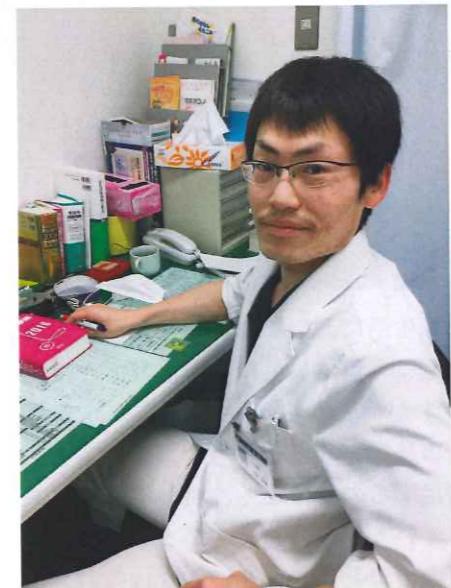
小林病院（4年目）

西越 崇博

この春から5年目になります西越崇博です。AMUSE1周年の会報に寄稿の機会をいただきましたので、私の近況を報告させていただきます。私は現在、北見の小林病院に勤務しています。外科医師は部長の山本康弘先生を筆頭に5名勤務しています。入院患者数は25-50名ほどと時期によって幅があります。水、木と隔週土曜日の午前中に外来に出ています。私は当院で初めて継続的に外来に出る機会を頂きましたので、非常に勉強になります。病棟、外来ともに頼もしい看護師さんに囲まれ楽しく仕事をさせて頂いています。

手術日は月、水、木の午後です。だいたい1、2件は手術が入っています。執刀が当たるのはTAPPか胆摘が多いです。手術室には腹腔鏡の練習器具もあり、縫合の練習など行ったりできます。手術症例自体は決して多くありませんが、手術見学やビデオをみて勉強する時間をとることができます。考える機会は多いです。

当直業務は月に2、3回程度あり、全科当直で整形、循環器、脳外の患者を見る機会が多いです。救急車は一晩で平均3、4台受けます。昔は急性アルコール中毒が多くあったそうですが、最近は少



ないです。不景気の影響でしょうか。

毎週金曜日の午後にリハビリカンファレンス、翌週の手術症例のカンファレンスを行っています。また、2週間に一回の抄読会を行っており、結構な頻度で当番が回ってきます。他にも月に一回、北見市内の開業医との勉強会を継続しており、そこでの発表もあります。

私は将来的には消化器外科医として地域に貢献できればと考えておりますが、赴任地において家庭的な役割を担うことができるようになりたいです。

AMUSEへの期待は、新しく仲間になる医師の研修の充実はもちろんですが、今いる医師の育成にも目を向けて頂けるとありがたいです。最後になりますが、AMUSEの今後ますますの発展を期待しています。

自己紹介と近況

遠軽厚生病院（5年目）

石井 大介

近況（勤務施設、研修内容▶手術や病棟の内容）

遠軽厚生病院で後期研修（5年目）をさせて頂いております。遠軽厚生病院は遠紋地区だけでなく、広く道東、道北地区の中核病院として療養から救急医療まで幅広い役割を担っている病院であり、その一員として日々鍛錬させて頂いています。遠軽厚生病院外科は消化器外科だけでなく、乳腺外科、血管外科、呼吸器外科などの多岐にわたる一般外科の分野をカバーしており、主治医・執刀医としてたくさんの経験をさせて頂いています。また内視鏡技術認定医の下、腹腔鏡手術も多く経験することが出来、大変勉強になっております。

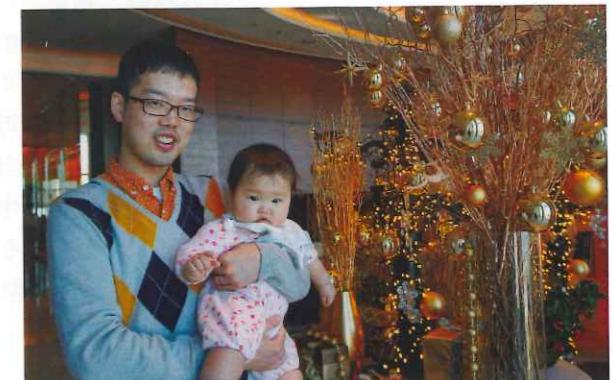
目指す外科医像

海堂尊の小説の中に出てくる看護師長がこんな言葉を部下に言います。「生老病死、すべてを経験した医療者になりなさい」と。短い2年半という期間でしたが遠軽厚生病院で、地域の高齢者を、癌の患者を、様々な原因で亡くなる方々を担

当させて頂きました。閉鎖していた産科が去年10月から再開し、先日帝王切開の助手もさせて頂き、「生」に関わる外科も経験することが出来ました。私事になりますが去年3月に長女が生まれ、日々成長する愛娘からたくさんの「生」を感じています。私は4月から小児外科の分野に進みます。小児外科は「生」を助ける外科だと思います。すべてをパーソナルにできるとは思いませんが、いつまでも「生老病死」に関わる外科医でいたいと思っています。

AMUSEへの要望・期待

2012年に旭川医大を卒業し、古川教授の旧第二外科に入局しましたが、研修の日々の中で小児外科を志すようになりました。古川教授に相談したところ「まずは大人の外科をしっかりとがんばりなさい」と快く応援して下さい、研修させて頂きました。4月からはAMUSE内の異動で小児外科を専攻させて頂ることになりました。「旧第二外科から旧第一外科への禁断の転科だ（笑）」と某教授には言われましたが、自分の夢を応援して下さる古川教授・AMUSEには感謝しかありません。精一杯努力し、AMUSEの一員として、その自覚を持ち、微力ながら貢献していきたいと思っています。今後ともよろしくお願ひいたします。



【AMUSEロゴの製作・報告】

会報表紙にも使用されておりますAMUSEのロゴについてこの機会にご報告いたします。AMUSEが一法人になるに当たり、会員皆様のシンボルになるような社ロゴを外部（Bizup社）に委託し、製作いたしましたので報告いたします。

Asahikawaの“A”がモチーフ。

団結をテーマに、球体（学生・研修医）を組織が包み込むフォルムとなっております。シャープな円弧は“行動”と“スピード感”や“進むべき将来”を表現しており、色彩にもグラデーションが入っていて、これから変化、成長していく姿を表現しました。

大学：ライトグリーン（新鮮さ）

関連病院：ネイビー（信頼感）

医学生・研修医：ゴールドイエロー（未来）←いわゆる金の卵？
の意味が込められています。

これから多くの会員に親しまれるロゴになって頂けますと幸いです。



文責：内田大貴

編集後記

早いもので、AMUSE設立から1年が経過しましたが、同時に小生が消化器病態外科学分野の教室長を仰せつかってから2年半が経過しようとしています。教室長になって間もない頃、ある教授から「教室長就任おめでとうございます」というお言葉をいただきました。正直何がめでたいものかと思いましたが、やはり大変な任務でした。

労働安全衛生法改正により、今年度から本学でも全職員がストレスチェックを受けることになりました。当然小生は高ストレス状態と判定され（外科医は大方そうかもしれません）、産業医のK先生の面談を受けてきました。この制度の目的は、必要な範囲で就業上の措置（時間外労働の制限、作業の転換など）を講ずることでメンタルヘルス不調に進展することを未然に防ぐことだそうですが、われわれ医師ではその様な対応はほぼ不可能なのが現実と思います。

教室長（医局長というのが一般的ですが、当科ではこう呼ばれます）の業務は医局によって結構な違いがある様ですが、こんなにも役割が集中する仕組みを誰が作ったのかと思ってしまいます。AMUSE内での私の役職（？）は「幹事」だそうですが、AMUSEの幹事は5人いることになってます。AMUSEができたことで教室内の役割分担も上手く分散できるようになることを心から望む今日この頃です。（K.H）

早いもので、AMUSEの設立から1年になります。医局長という立場上、立ち上げから関わらせていただきました。当初は右も左もわからず、法人登記やら、見慣れない、聞き慣れないフレーズに悪戦苦闘しましたが、何とか今日までやってこれました。AMUSE顧問の堂下さん、事務局の米谷さんには頭が上がりません。この場を借りて御礼申し上げます。

ソースと醤油？、塩と砂糖？、1外と2外？何にたとえれば良いかわかりませんが、お互い全く歴史や習慣が違う組織が一緒になることの大変さをこの一年、本当にいろんな意味で痛感しました。

“ローマは一日にして成らず”ではないですが、向かう方向は一緒です！AMUSEとしての歩みが今後も続くよう、微力ながらお手伝いできればと思っております。AMUSEともに会員の皆様の益々のご発展を祈念して自分の後記とさせていただきます。（D.U）